

【トップインタビュー】 ◇自治体は支え合いの方向に＝石原正敬・三重県菟野町長

滋賀県との県境・鈴鹿山脈の麓に位置する三重県菟野町（4万700人）。石原正敬町長（いしはら・まさたか＝42）は「これからの自治体は『連携』や『支え合い』という方向に行く。お互いに足らざる部分を補い合い、住人が楽しく過ごせるようにすることが大事」と指摘する。

10月下旬、鈴鹿山脈に近接する三重、滋賀両県の6市2町による「鈴鹿山麓無限∞会議」が設立され、会長に就任した。「町村会や市長会という枠組みだけでなく、（県境をまたいで）共通の課題を持つ自治体が集まることが大事だ」と意義を語る。

将来的な方向性として「住人同士の交流を促進させたい。高齢者のウォーキング大会を持ち回りで開き、その土地の歴史を巡るのも面白い」との考えを示す。他にも「政策自慢大会を開くなど、自治体職員による議論や情報交換の場にもなればいい」と笑顔を見せる。今後、年に2回程度会議を開催する予定で、次回は来春に滋賀県東近江市で行う。

観光面では、「福祉が町の付加価値を高める」との考えからNPO法人や近隣市町と「トイレによるまちづくり」に取り組んでいる。多機能トイレがある場所をインターネット上で紹介することで「高齢者や車椅子の人など、『トイレが気になって外出できない』という人にとっては、すごく魅力的に映る」と話す。現在、町内には17カ所の多機能トイレがあり、経路検索サイトなどで公開している。

また、御在所岳の裾野にある菟野富士（標高369メートル）にバリアフリーの散策道を整備する計画を進めている。「車椅子の人が山を歩く体験ができる場所をつくりたい。桜の木を植え、御在所ロープウェイや（2018年開通予定の）新名神高速道路からも見られるようにしたい」と意気込む。

〔横顔〕県議などを経て07年に初当選し、現在2期目。町民から勧められて始めた俳句を毎日フェイスブックに投稿している。最近では囲碁を始めた。座右の銘は「挑戦無くば前進無し」。

〔町の自慢〕「町のために協力しようという意識が住民にある。毎年10月にあるハーフマラソンにも運営ボランティアが多い」。町長のお薦めは「御在所ロープウェイの下りで、伊勢湾が一望できる風景」。

〔ホームページ〕<http://www2.town.komono.mie.jp/>

（津支局・真島裕）（了）（2013年12月25日配信）

